

平成 28 年度

北 区 学 校 フ ァ ミ リ ー  
事 業 報 告 書

東 京 都 北 区 教 育 委 員 会

## はじめに

北区教育委員会 教育長 清正 浩靖

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流・連携活動の状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、平成27年3月に策定された『北区教育ビジョン2015』では、重点施策のトップに「地域と一体となった教育の推進」を掲げ、「サブファミリーによる特色ある教育の推進」「就学前教育・保育の充実」「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫校の検討や、認定こども園の設置検討を行ってきました。

小中一貫校については、神谷中学校サブファミリーを構成する稲田小学校、神谷小学校、神谷中学校を、学校教育法第一条に定める義務教育学校として設置し、児童・生徒一人ひとりの発達の段階に応じた切れ目のない学習指導、生活指導を行うとともに、施設一体型としての利点を活かし、学校教育における新たな取組に積極的にチャレンジすることで、教育内容のより一層の充実を図り、北区の教育が抱える諸課題の解決に資する学校となることを目指します。

また、この春に北区立さくらだこども園を開園し、幼児期における学校教育と保育を一体的に実施することにより、子どもにとって質の高い教育・保育を実践する場、研究発展させる場として就学前教育保育の充実を図ります。

今後も、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



# 目 次

## I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだ幼	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・荒川小・十条台小 ・じゅうじょうなかはら幼	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小・ほりふな幼	7
稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼	13
神谷中・神谷小・稲田小	15
浮間中・浮間小・西浮間小	17
田端中・滝野川第四小・田端小	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・滝野川第六小・谷端小・紅葉小 ・たきさん幼	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小	23

## II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要	25
---------------	----

# 王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小・さくらだ幼）

## 1 交流・連携の方向性

### (1) 研究主題 **平成28年度 ～自己肯定感の高い子ども～**

「自分らしい生き方を実現していく幼小中のつながり」  
 ～NIEを取り入れた、生きる力を育む幼小中一貫教育～

### (2) 研究の内容と方法

- 研究成果の継承と発展 平成26年度以降の異動等で加わった教員と共に研究成果を共有し、共通理解を図る。「知・徳・体」の3分野を8つのチーム（教科・領域等の8分科会）で編成し、前年度にまとめた教科の指導方法及び評価方法を授業（保育）に生かすことで、更なる「自己肯定感の高い」子どもの育成に努める。
- NIEのつながり NIE教育を連携の土台とし、朝のNIE・新聞タイムの実践における成果を検証し、工夫、改善を進める。幼・小・中の発達段階に沿い、新聞を素材として活用するための教材開発に一層努める。
- 授業スタイルのつながり 小1プロブレムや中1ギャップ等、校種が変わる度に起こる段差を解消することや円滑な接続を図ることを目的とし、幼小中一貫の共通した学習（保育含む）・生活指導のスタイルづくりを目指す。

## 2 具体的な活動

実施日	会場校	取組	主となる活動内容
5月26日(木)	王子桜中	運営委員会	組織、研修内容検討、年間計画作成
6月8日(水)	王子小	ファミリー研修会	研究方針の確認と具体的研究計画の検討 王子小研究授業指導案検討 全体会、分科会、リーダー会、研究推進委員会（指導案の作成事項の確認と共有）
6月22日(水)	王子小	第1回学校ファミリーの日	王子小教員による研究授業 研究協議・分科会・研究推進委員会
8月26日(金)	王子桜中	ファミリー研修会	講演会「自分らしい生き方を育むNIE」（前滝野川小学校長 関口修司先生） 分科会 幼小中交流親睦会（バレーボール他）
9月7日(水)	王子桜中	第2回学校ファミリーの日	王子桜中教員による研究授業 分科会・リーダー会・研究推進委員会
平成29年 1月11日(水)	東十条小	ファミリー研修会	東十条小研究授業の指導案検討 分科会・リーダー会・研究推進委員会
1月25日(水)	東十条小	第3回学校ファミリーの日	東十条小教員による研究授業 分科会・リーダー会・研究推進委員会
3月末日	王子桜中	学校運営委員会	1年間の反省・次年度計画検討

### (1) 研修講演会

平成28年8月26日(金) 全体研修における講演会(NIEの理解と実践)  
演題 「自分らしい生き方を育むNIE」

前北区立滝野川小学校長 関口 修司 先生

### (2) その他の活動

- 通年 合同避難訓練 5月 引き渡し訓練の合同実施(王子桜中・王子小)
- 6月 中学校体育祭への小学生、幼稚園児の参加(サブファミリー全体)
- 7月 中学生職場体験学習受け入れ(総合的な学習の時間・5日間)  
(サブファミリー全体)
- 9月 SF水泳記録会(王子小・東十条小)
- 11月 中学校体験入学(王子桜中・王子小・東十条小)
- 12月 小中学生主張体験発表会(北区青少年東十条地区委員会主催)
- 2月 小中交流音楽行事(音楽朝会での演奏・PTA行事での演奏 3校)
- 3月 中学校生徒会と小学校児童会の募金活動(王子桜中・王子小)
- 6・1・2月 幼稚園児と児童の交流、交流給食(小・さくらだ幼稚園)



幼小交流活動



小中交流活動



NIE(英字新聞活用)

## 3 成果と工夫した点

成果として(1年間の研究を通して)

- 幼・小・中での成長の過程を共通理解した上で発達段階にそった学習用資料を豊富に用意し、単元の中で体験や実験を多く取り入れるなど、系統性をもった教材開発、教具の工夫、多様な学習形態の導入などができた。
- NIEを幼・小・中の学びのつながりの土台とし、確実な成果を上げている。幼児・児童・生徒の実態や発達段階に合わせ意図的な指導が継続的にできた。児童・生徒の言語活動の幅が広がり、表現力の育成につながられた。
- 年3回の研究授業実施に向け教員間で学習指導案検討を深められた。幼・小・中それぞれの段階の学習指導における評価規準の検討がなされた。

工夫した点

- 特定公開フォルダを各分科会で活用した。学習指導案を入れることで各教員が検討を行い授業実践の充実化につながった。サブファミリー内の全教員が常に最新の情報や進捗状況を知ることができた。

## 4 課題と改善の方向性

本年度も分科会形式で研究を進めた。全体会において今までの研究経過や成果を全員で共有できるようにする。また幼児・児童・生徒の生活状況や実態にそった生活指導を深められるよう3校1園の連携、体制づくりを進めていく。

# 十条富士見中サブファミリー（十条富士見中・王子第二小・王子第三小 ・王子第五小・荒川小・十条台小・じゅうじょうなかはら幼）

## 1 交流・連携の方向性

幼稚園・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達や連続性を配慮し、小中学校カリキュラムを作成し、指導案検討会を充実し、基礎学力の定着や生活指導の情報交換を行う。また授業研究会は7分科会とし講師を招聘して小中学校の一貫教育を研修する。

- (1) 学校ファミリーの取組の柱を「言語活動の充実」～学校図書館の活用～とする。
- (2) 幼小中学校教員間の教育交流と情報交換（年間4回）
  - ①小中学校の一貫カリキュラム完全実施について、指導案検討・研究授業の実施。
  - ②小中学校の生活指導の情報交換会の開催。
- (3) 園児・児童・生徒の交流学習を行う。さらに地域の行事を活用した連携活動の推進。

## 2 具体的な活動

- (1) 調整や話し合いの実施
  - ・ 校園長連絡会（年度当初、年度末に計2回開催）
  - ・ 運営委員会（教務主任または担当、年間4回開催）
  - ・ 養護教諭連絡会など必要に応じて教員連絡会を設定
- (2) サブファミリー全体での活動
  - ・ 授業研究会（年間3回） 6月22日（水）・9月7日（水）・1月25日（水）
  - ・ つまずきゼロプラン検討会 ・小学生の中学校体験入学
  - ・ 各小学校において、保幼小間の交流給食事業 ・体験入学の実施や園児の凧揚げ大会
  - ・ 中学生職場体験の各小学校への受け入れ
  - ・ 北区連合陸上記録会に向けて中学生による陸上競技指導 ・新一年情報交換会
- (3) 「学校ファミリーの日」の授業研究会

第1回 授業研究会		王子第三小学校 授業13：45～		協議会14：45～	
分科会	教科	学年・組	単元名		授業者
1	国語	1年2組	どうやって みをまもるのかな		関 英里香
	特別支援教育	3組	ともこさんは どこかな 日づけとよう日 あめですよ		丸山 環 山田 絵美 村田麻穂香 平井美智子
2	社会	5年1組	あたたかい土地のくらしー沖縄県ー		岩森 一弥
	生活科	2年1組	野さいをそだてよう		松村 裕子
3	算数	3年1・2組	重なりに目をつけて	今清水仁美 緒方直道	塚原英俊
4	理科	6年2組	植物のからだのはたらき		橋本 暁
	道徳	4年1・2組	残しておこう	秋葉 典人	広江 京子
5	図工	6年1組	色を感じて		伊藤 恭子
	体育	1年1組	体づくり運動		酒井 和哉

	音楽	2年2組	ひょうしをかんじて、リズムをうとう	阿部理良子
6	外国語	5年2組	何が欲しい? What do you want?	猪塚 勝俊

第2回 授業研究会 十条富士見中学校 授業13:45～ 協議会14:50～				
1	国語	1年2組	大人になれなかった弟たちに…	林 曜子
2	社会	1年3組	世界の諸地域の暮らし	林 康弘
		3年2組	戦時下の人々	細萱 仁志
3	数学	2年1・2組	1次関数	金城 龍弥 小暮 勝利 島田 正義
4	理科	3年1組	生物の繁殖	岩間 高夫 山本 博美
5	美術	3年3組	蔵書印の制作	伊藤 智也
6	保健体育	1年4・5組	水泳	椎名 亮太 名取 秀康
7	英語	1年1組	Be動詞と一般動詞の区別	加納 隆子
		2年3組	Reading活動	黒瀬 由真
		3年4組	Call AB、Make AB	古谷ちひろ

第3回 授業研究会 王子第五小学校 授業13:40～ 協議会14:45～				
1	国語	1年1組	おはなしを つくろう	小林 修代
2	社会	3年1組	昔の道具と人々の暮らしを調べよう	市川 麻衣
3	算数	4年1組	算数おもしろ旅行	三ツ矢 和仁 佐藤 文加
4	理科	5年1組	もののとけ方	濱田 圭悟
5	音楽	2年1組	カルタをつくろう	長嶋 真理
6	体育	6年1組	バスケットボール	市野 佑弥
7	外国語	1年2組	立ちましよう	岩本 可那子 エイミー エバンス

### 3 成果と工夫した点

7つの分科会を設定し、「言語活動の充実」を柱としながら、今年度は特に学校図書館の活用を焦点をあて研究を深めてきた。3回の授業研究会では、「交流を位置付けた学習と発問や言葉かけの工夫」と「人間関係づくり」の2視点をもった。学校図書館の充実を目指して講演会に図書流通センターから講師を招いた。またすべての児童に学習の定着を図るため「授業のユニバーサルデザイン化」についてサブファミリー全体で学んできた。

研修会では、分科会ごとに講師の先生方をお招きし、専門的な内容について幼小中一貫の系統的な指導について研鑽を深めてきた。

### 4 課題と改善の方向性

分科会ごとに幼小中一貫教育の系統的な指導について学んできた。つまずきゼロプランをはじめとする、日々の学習指導において実践を深め、サブファミリー全体の学力向上の実現につなげることが課題である。さらなる学校図書館司書の活用も課題解決につながる。

# 明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小）

## 1 連携の方向性

### 研究主題

キャリア教育を中心とした学力向上を特色として、以下の4つの柱で推進する。

- ① 各校及びファミリー全体であいさつ運動を重点に円滑なコミュニケーションを築く。
- ② 学習意欲の向上を図り、子どもたち自身による学びの参画を図る。
- ③ 今の自分を見つめ、次の目標に向かって努力できるようにする。
- ④ 小中連携して9年間一貫して取り組むことによって内容の充実を図る。

## 2 具体的な活動

### (1) 日時・会場・活動内容

- 4月22日（金）15：30～明桜中 運営委員会  
・組織づくり ・今年度の活動方針と計画を確認、全体会の仕事分担
- 5月6日（金）15：00～明桜中 全体会・運営委員会  
・平成28年度 明桜中SFの活動説明 ・授業研究分科会顔合わせ、役割分担
- 6月10日（金）15：00～王一小 授業分科会・運営委員会  
・6月22日 王子第一小学校の授業の事前検討
- 6月22日（水）13：45～王一小 研究授業・協議会・運営委員会  
・王一小授業（10分科会）授業後、分科会ごとに研究協議会・養護分科会情報交換
- 8月29日（月）15：00～明桜中 授業分科会 運営委員会  
・9月7日 明桜中の授業の事前検討
- 9月7日（水）13：45～明桜中 授業・運営委員会  
・明桜中学校授業（10分科会）授業後、分科会ごとに研究協議会
- 12月20日（火）15：30～明桜中 生活指導主任参加による情報交換
- 1月25日（水）13：40～とし若小 研究授業・育ちの分科会・運営委  
・としま若葉小授業（10分科会） 育ちの分科会で協議
- 2月6日（月）15：30～明桜中 運営委員会  
・2月17日の全体会に向けて ・1年間の反省、来年度の活動内容の検討など
- 2月17日（金）15：00～明桜中 全体会・運営委員会  
・各教科分科会より今年度の研究の成果と課題を報告

### (2) 分科会での活動

#### ①授業研究分科会

6月22日（水）王一小、9月7日（水）明桜中において

各教科及び道徳・特別支援・養護の12分科会に分かれて研究授業を行う。（養護部は情報交換）各分科会では次のことが話し合われた。

○学びのつながりから学習上の児童・生徒の課題と対応策を検討する。

○キャリア教育の観点から授業を見直し、課題を探る。

## ②生活（育ち）分科会

1月25日（水）としま若葉小学校において

学級づくり・学習習慣・言語活動・家庭学習・けが・事故対応・基本的な生活習慣・保護者対応のテーマで10分科会に分かれ、児童・生徒の実態を課題、対応策について各校からの情報交換をする。

## （3）その他の活動

児童会・生徒会の交流

## 3 成果と工夫した点

### （1）教科指導面での連携について

小学校2回、中学校1回の授業では、小中一貫教育カリキュラムを活用し、キャリア教育の視点も取り入れながら授業づくりを行った。指導案づくりから授業実践の過程で、児童・生徒の実態の違いや共通に取り組める指導内容、方法などを話し合うことができた。

サブファミリーにおける指導法や児童・生徒理解等の話し合いが、小学校から中学校へ滑らかに接続していく上で大切であることが分かった。

《キャリア教育との関連》

話し合いの活動を取り入れたり、役割を分担させたり、自分を振り返らせたりと、授業づくりにおけるキャリア教育視点が明確にできるようになってきた。これまでキャリア教育の視点で積み重ねて取り組んできたことで、9年間に渡る児童・生徒の成長を考えた授業づくりの工夫をすることができた。

### （2）生活指導面での連携について

育ちの分科会は全員が5つの観点に分かれ、少人数で情報交換することで、小学校間の連携と小中間の連携が取れた。基本的な生活習慣の徹底には、保護者との連携が不可欠であるが、家庭教育で難しいことも、子どもの成長を見通して学校で指導を重ねることが重要性であることが分かった。また、小学校での生活経験、学習経験が中学校で生かすことができていることも見えてきた。さらに、得意なことをさがし、経験させ、伸ばしていくことが大切である。

## 4 課題と改善の方向性

児童会と生徒会との交流については天候の影響で実施できないこともあった。次年度はどのような内容で取り組むか年度当初に確認し、各校が取り組みやすい共通テーマで交流活動をすすめていきたい。

今年度、各分科会で出た課題を引き継いでいき、次年度に生かしていく。

次年度は小学校2回、中学校1回の研究授業と事前検討会を予定する。また、事後のふり返りの時間を確保し、研究を充実させる。

## 堀船中サブファミリー（堀船中・堀船小・滝野川第五小・ほりふな幼）

### 1 交流・連携の方向性

昨年度に引き続き、「情報活用教育（＝情報活用能力の育成）」を柱として、幼小中の連続した11年間の学びを視野に入れ、幼小中教員が連携した授業実践を行った。

本サブファミリーでは、大きく「知育」・「徳育」・「体育」の3分野に分けて、「知育」分野では「基礎学力を身に付け、自ら考える子」、「徳育」分野では「思いやりの心をもったやさしい子」、「体育」分野では「ねばり強く、最後までがんばる、げんきな子」を目指している。

具体的な組織については、上記の3分野を、下の5つの分科会に編成して研究を進めた。分科会のメンバーは1年間固定した。

「知育」分野： ①国語・外国語分科会 ②算数・数学分科会 ③社会・理科分科会

「徳育」分野： ④道徳・芸術表現分科会

「体育」分野： ⑤体育・特別支援教育分科会

### 2 今年度の主な活動内容

5月11日 堀船中にて全体会（今年度の方針、組織、情報交換）

6月14日 堀船小にて分科会ごとに指導案検討会

6月22日 堀船小にて連携授業（第1回ファミリーの日）

【知育】 外国語活動 4年1組 佐藤由佳教諭  
算数科 6年 原 豊教諭、久田麻子教諭、大野久仁子主任教諭  
社会科 5年2組 高田一洋教諭

【徳育】 音楽科 5年1組 小川修主幹教諭（久保田美紀主任教諭）

【体育】 体育科 1年2組 吉原武久教諭

8月29日 滝五小にて夏季ファミリー研修（9月7日の連携授業の指導案検討）

9月7日 滝五小にて連携授業（第2回ファミリーの日）

【知育】 国語科 2年2組 越智妙子教諭  
算数科 4年 坂巻博美主任教諭、内田めぐみ教諭、岡 花梨教諭  
社会科 3年2組 古家幸生教諭

【徳育】 図工科 2年1組 熱海晃子教諭

【体育】 体育科 1年2組 鈴木 誠教諭

1月24日 堀船中にて平成27・28年度北区教育委員会研究協力校研究発表会  
（第3回ファミリーの日）

《研究主題》自分から 自分の力で 自分のこととして 主体的に学ぶ生徒の育成  
～学びへの意欲が高まる「堀中授業スタイル」の確立を目指して～

公開授業 1-1 英語（少人数） 岩崎 彩教諭 土井宏之主幹教諭  
1-2 理科 岩本康弘教諭  
2-1 数学（少人数） 奥村准一主幹教諭 黒川実紀子主任教諭  
2-2 国語 堀口千尋教諭  
3-1・2 保健体育（男子）杉政 健教諭（女子）荻野和美教諭

2月21日 運営委員会 今年度の反省と来年度の方針・計画検討 滝五小にて  
《講師の先生方》（講師の先生を1年間固定）

【知育】

（国語・外国語分科会）東京家政大学進路支援センターアドバイザー 三原一浩先生  
（算数・数学分科会）北区教育アドバイザー 中尾豊三郎先生

（社会・理科〈生活・総合〉分科会）帝京科学大学教職特命教授 川上 彰久先生

【徳育】（道徳・芸術表現分科会）武蔵野大学教育学部 講師 橋本由愛子先生

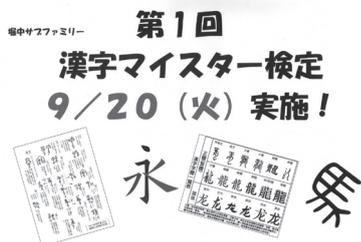
【体育】（体育・特別支援教育分科会）元北区立浮間小学校校長 伊田 周平先生

### 3 成果と工夫した点

- （1）小中一貫した基礎・基本の定着のために、小学校2年生から中学3年生までを対象に漢字コンテスト《漢字マイスター》を学年別に実施した。合格者には、ファミリーから賞状を授与した。ファミリーの一員である意識が高まり、学びの意欲を高めることにつながった。
- （2）昨年度は6月のファミリー連携授業前に、指導案検討会を設定できなかったもので、今年度は、6月に指導案検討会を設定した。その結果教員同士のコミュニケーションの場がさらに増え、異校種の教員が気軽に学びに関する相談ができたことで、より良い連携が図られた。
- （3）「情報活用教育」を柱とした研修テーマが明確に指導計画に位置付けられたことで、ICT機器を活用した授業や収集した情報を整理しての話し合い、発表する主体的な学習活動が行われるようになった。

### 4 課題と改善の方向性

小中一貫して、子どもたちの思考力や判断力、表現力を育成するために、多様な情報活用の力を身に付け、子どもたちの主体的・対話的な深い学びを実現していくことが課題である。そのために、いわゆるアクティブラーニングを取り入れた授業スタイルの確立をめざし、さらにあいさつや授業規律の確立も含め、ファミリー全体で取り組んでいく。



堀船中 漢字マイスター表彰者



第1回 学校ファミリーの日(外国語活動)堀船小



第2回 学校ファミリーの日(知育・国語科)滝五小

# 稲付中サブファミリー（稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼）

## 1 交流・連携の方向性

平成23年度に各学校の教育目標を持ち寄って稲付中サブファミリーとして目指す幼児児童生徒の姿を設定した。平成28年度の方向性は、その実現に向けて教育活動の連携・推進をさらに強化することであった。最近の数年間、教科分科会を中心に幼小中連携授業に取り組み、幼小中の滑らかな学びの連続性の深化が図れるように授業実践、協議・検討を進めている。今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1問題・中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。また、稲付サブファミリー2校が指定されている「オリンピック・パラリンピック教育重点校」としての連携、合同行事の開催や、授業研究・体験教室の実施等、協力して取り組んだ。

## 2 具体的な活動

### (1) 稲中サブファミリー組織構成

平成28年度

小中一貫教育担当校長 稲中校長 小代表校長(梅木小)	
運営委員会 全校長・全副校長・幼副園長・各校担当主幹(主任) (必要に応じ、SF運営アドバイザー・指導主事・教育指導員他)	
授業研究部会 各分科会チーフ	国語・社会・算数数学・理科・音楽・図工美術 保健体育・外国語活動英語・道徳・健康 10分科会
稲付中学校 梅木小学校	西が丘小学校 うめのき幼稚園

### (2) サブファミリー全体での活動(年間計画)

実施日	会場	取組	内容
5月6日 (金)	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画、 6月学校ファミリーの日計画
6月22日 (水)	稲付中学校	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
8月29日 (月)	梅木小学校他	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
9月7日 (水)	梅木小学校 うめのき幼	連携授業	教科分科会ごとに連携授業、研究協 議会、つまずきゼロプラン検討
12月20日 (火)	西が丘小学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
1月25日 (水)	西が丘小学校	連携授業 運営委員会③	分科会の連携授業、研究協議会 研究のまとめ(成果と課題)
2月20日 (月)	稲付中学校	全体会・報告会 運営委員会④	各分科会報告、次年度へ向けて 次年度計画に向けて

### 3 成果と工夫した点

- (1) 今年度も9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリー一斉研修日を設定した。幼小中の教員が分科会ごとに集まり指導案や指導方法を検討したり、役割分担をしたりすることを通して互いの経験や知識・技能、思いを伝えながら教材研究を進め、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。昨年度課題であった4校1園で授業会場が分散することは統合により解消し、3回のファミリーの日に各校会場で連携授業を実施できた。
- (2) ファミリーの日3回全てで授業研究を実施した。授業後の分科会では、北区小中一貫カリキュラムを基にした授業の振り返りや指導内容・方法の改善について協議したり、つまずきゼロプランを検討したりした。幼小中の校種にまたがる内容について互いの立場を尊重した協議をすることができた。
- (3) 特定公開フォルダ〈稲付中SF〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の場として活用の幅が広がった。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育重点校として、梅木小学校で「オリンピック・パラリンピック教育重点校報告会」を実施できた。研究授業や報告会を通して、サブファミリー間で情報を共有することができた。また、オリンピックの招聘はできなかったが、小学校2校合同水泳記録会を統合前と同様に実施した。中学校進学前の6年生児童が一堂に会して親睦を深める機会を増やすことにより、児童相互の理解を深め、中学校入学後の好ましい人間関係の形成につなげることができた。

### 4 課題と改善の方向性

- (1) 授業研究での課題と改善
  - ・各分科会での授業は、必ず分科会のメンバーがTTとして入っているが、TTとして有効に機能する場合とそうでない場合がある。TTとして活用する場合と授業記録や児童観察記録などの場合と必要に応じて役割を変え、有効に分科会メンバーを活用する。
  - ・本時の授業を振り返るだけでなく、授業研究に「授業規律」「発問の仕方」などの視点を設け、様々な角度で、授業分析、小中の連携授業の意見交流を行う。協議会のマンネリ化を改善するとともに、連携授業に幅や深まりをもたらす効果があると考えられる。
- (2) 研究推進についての課題と改善

稲付中サブファミリーは2校が「オリンピック・パラリンピック教育重点校」に指定されている。また、「オリンピック・パラリンピック教育」の年間指導計画も本格実施となる中、サブファミリーで情報交換や共通理解を図りながら、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図っていく。各分科会の研究にも、稲付中サブファミリーの特色である「オリンピック・パラリンピック教育」の視点を取り入れた授業を意識的に展開できるようにし、これまでの取組・開発の成果を生かして、さらなる発展へとつなげていきたい。

## 赤羽岩淵中サブファミリー

(赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小)

### 1 連携の方向性

児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。授業においては、北区小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した小中の連続性のある指導を行う。

また「防災教育」に焦点を当て、「防災教育小中一貫年間指導計画」を策定するとともに、小中合同引取訓練や地域総合防災訓練など、保護者・地域と連携した小中一貫型防災教育を推進する。

#### (1) 運営組織

- ・運営委員会…各校長

○運営方針の決定、各校間で必要な調整を行う。

○時程・場所 いずれも午前10時から 赤羽岩淵中学校校長室

#### (2) 授業研究について

- ・授業研究を貫くテーマ「学習の連続性に着目した指導・評価の工夫」

- ・各分科会10部会 ( )内は運営委員…各校校長及び副校長

国語部会 (赤岩中：井上校長)

社会部会 (赤岩中：小倉副校長)

算数・数学部会 (第四岩淵小：山本校長)

理科部会 (岩淵小：折本校長)

外国語活動・英語部会 (第四岩淵小：堀江副校長)

体育・保健体育部会 (なでしこ小：石井副校長)

音楽・図工・美術・技術・家庭部会 (なでしこ小：大田校長)

特別支援部会 (赤羽小：飯島副校長)

養護部会 (岩淵小：阿相副校長)

防災部会 (赤羽小：本間校長)

※教員は上記10部会のいずれか1部会に所属

### 2 具体的な活動

- ・5月6日(金)…全体会、各部会 その後 運営委員会 (赤岩中)

- ・6月22日(水)…赤羽岩淵中学校で授業研究及び研究協議会 (赤岩中)

※講師は各部会担当で手配

- ・8月30日(火)…防災講演会「大震災に備える」(赤岩中)

- ・9月7日(水)…防災教育に焦点を当てた授業研究 (第四岩淵小学校)

- ・1月25日(水)…各小学校で授業研究及び研究協議会 (各小学校)

※講師は各部会担当で手配

- ・2月17日(金)…各分科会の今年度総括 (各小中学校) 及び  
中3小6担当連絡会 (赤岩中)

### 3 成果と工夫した点

- (1) 平成27年度に引き続き、10分科会に分かれて、小中が連携した授業研究を推進した。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の流れを意識し、「学習の連続性に着目した指導・評価の工夫」を研究のテーマに据え、昨年度の研究を踏まえて更に内容を深化させることができた。研究の焦点を絞ることで大変成果があがった。
- (2) 防災引き取り訓練を小中が連携して同時に実施し、保護者が小学生を迎えに行ったその足で、中学校へ来るといふ訓練が混乱なく実施できた。サブファミリーの小中学校が同日に一斉に引き取り訓練をすることで保護者や地域の防災に対する意識は更に高まった。
- (3) 北区防災学校・地域との合同防災教育授業・ファミリーの日防災研究授業・夏休み防災講演会など、各小中学校で実践的な防災教育に取り組み、特に地域自治会や消防署・各消防団が連携した防災訓練が行われた。
- (4) ファミリー小学校の6年生全員を対象にした中学校新入生体験授業の実施、ファミリー校展覧会作品交流展示、PTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察が参加しての長期休業前のサブファミリー生活指導連絡協議会（夏・冬長期休業日前の年2回実施）など、関係諸機関・PTA・児童を巻き込んだファミリー間の連携行事でさらに強く結びつくことができた。
- (5) 年度末には「小6」「中3」の担当者が情報を共有し、きめ細かい情報共有ができ、「中1ギャップ」の解消に努めることができた。

### 4 課題と改善の方向性

運営委員会で決定された運営方針をもとに、各校間で副校長・教務主任・各分科会のチーフと連絡を取り合い、情報共有を緊密にし、互いの連携を深めていくことが重要である。

また、各校の特徴を生かしながら、小中9年間というスパンで地域と連携した教育活動を推進するための効果的な研修内容を工夫する。



小学校の展覧会へ中学生が展示見学



第四岩淵小学校 防災研究授業



小中合同研修 防災に関する講演会

# 桐ヶ丘中サブファミリー（桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小 ・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼）

## 1 交流・連携の方向性

「何事にも意欲的に取り組み、自己有用感もてる幼児・児童・生徒を育てる」という前年度までの取組を継承しながらも、今年度は、子どもの多様な課題に対応することを重点に、分野ごとの分科会を設定し取組を展開した。

具体的には「健全育成」、「学力向上」、「体力向上」、「特別支援教育」の4つの分科会を設定し、各校・園の教員をバランスよく配置し、各校・園の直面する課題を見据えながら研修を実施した。

## 2 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

年度当初、運営委員会において、今年度の活動の方向性を確認した。3回の学校ファミリーの日に、一回目は桐ヶ丘中学校で公開授業、二回目、三回目は小学校2校で必要に応じて小中の教員による共同授業を実施し、それぞれを参観し協議会を行う。

#### 「教科による連携」

7月19日（火）15：00～ 授業に向けた打合せ（会場校）赤西小、八幡小  
12月22日（木）14：45～ 授業に向けた打合せ（会場校）桐郷小、袋小

### (2) サブファミリー全体での活動

#### ① 桐ヶ丘中学校 平成28年6月22日（水）

全クラス、各教科・道徳の授業実践を公開した。各分科会（健全育成・学力向上・体力向上・特別支援教育）で、各分科会が設定したテーマに沿って、各校・園の取組報告や意見交換を行った。その内容については特定公開フォルダに収納する形で全体に周知した。

#### ② 八幡小学校 平成28年9月7日（水）

【道徳】4年1組 【算数】6年1組

##### <健全育成分科会>

「桐ヶ丘憲章について」及び「SNSルール」に対する各校・園の取組状況について情報交換を行った。

##### <特別支援教育分科会>

特別支援教育における幼小中連携のあり方について課題を出し合った。

#### ③ 赤羽台西小学校 平成28年9月7日（水）

【道徳】1年2組 【算数】4年（少人数）

【図工】5年1組 【音楽】3年1組

##### <体力向上分科会>

投力低下に対する取組について各校ごとに報告及び情報交換を行った。



### <学力向上分科会>

基礎学力定着に向けての中学校での課題と小学校の役割について具体的な話し合いを行った。

#### ④ 袋小学校 平成29年1月25日(水)

##### 【全学級】授業公開

### <体力向上分科会>

各校の体力調査のデータを持ち寄り、課題分析し、今後の取組の方向性について検討した。

### <学力向上分科会>

各校の取組状況の報告と課題分析を行った。子どもの学力の二極化などの課題があげられた。また、「東京ベーシック・ドリル」の活用など、各校で共通して取り組むことができるものを設定し、発達段階に応じた取組について意見交換を行った。

#### ⑤ 桐ヶ丘郷小学校 平成29年1月25日(水)

##### 【国語】1年1組 【社会】6年3組

##### 【道徳】3年2組

### <健全育成分科会>

村松統括指導主事による講評と木村校長先生による1年間の総括

### <特別支援教育分科会>

村松統括指導主事による講評と1年間の研修成果について



### 3 成果と工夫した点

- ・設定分科会を教育課題にしたことで、より具体的な連携の方向性が見えた。
- ・「特定公開フォルダ」を活用することで、情報共有が円滑に行えた。

### 4 課題と改善の方向性

#### (1) 課題

- ①小中一貫教育の視点に立った授業研究の協議が十分もてなかった。
- ②中学校と小学校と幼稚園との課題や現状に差異があり、それぞれの課題について情報共有と相互理解が必要である。
- ③計画的かつ継続的な連携と取組の必要性を感じた。



#### (2) 改善の方向性

- ①今年度の成果を踏まえながらも、小中一貫教育具現化に向けた授業研究を図る。
- ②つまずきゼロプランをもとに、校種を越えて課題を相互理解し、接続を円滑に行えるよう協力体制を確立する。
- ③年3回の研修会だけでなく、分科会ごとに必要に応じて活動を行う。

# 神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

## 1 交流・連携の方向性

- (1) 「交流・連携」から「一貫」へ、義務教育9年間の学びの連続性や校種の特性を生かした「小中一貫教育」に着実に取り組む。【学びのスタンダードの構築】
- (2) 授業研究のための分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、授業研究を行う。
- (3) サブファミリー総合防災訓練を核として、義務教育9年間を見通した防災教育を実施し、地域防災の担い手を育てる。
- (4) 小中学校の教員間の交流を活発にして、教員相互の信頼関係を深めるとともに、言語活動の充実をテーマにした指導案の検討を通して、教員の授業力向上を図る。
- (5) 各小中学校の特色を相互理解し、学校行事やその他の交流を推進する。また、児童・生徒の相互理解を深めるとともに、中学校進学への不安感を除く。

## 2 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

- ① 4月 8日（金）「管理職打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ② 4月12日（火）「防災訓練3校打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ③ 5月31日（火）「防災訓練3校打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ④ 7月11日（月）「SF連絡協議会」午後4時～5時30分（神谷中）  
・各校の生活指導・現況報告・情報交換、赤羽警察署より情報提供
- ⑤ 8月31日（水）「小中一貫学力向上部会」午後4時～4時45分（神谷中）
- ⑥ 9月24日（土）「SF標語展最終審査会」午後0時～0時40分（神谷小）
- ⑦ 11月29日（火）「百人一首大会打合せ」午後3時45分～4時30分（神谷小）
- ⑧ 1月25日（水）「管理職打合せ」午前10時～11時（神谷小）

### (2) サブファミリー全体での活動

- ① 5月 7日（土）「SF合同引き渡し訓練」  
各小中学校会場 午前10時50分～12時
- ② 6月11日（土）「SF総合防災訓練」  
神谷中学校会場 午前8時30分～11時
- ③ 6月16日（木）「小中一貫指導案検討会」  
稲田小学校会場 午後3時45分～4時30分
- ④ 6月22日（水）「北区学校ファミリーの日  
研究授業・研究協議会・全体会」  
稲田小学校会場 午後1時45分～4時30分



サブファミリー総合防災訓練

- ・講師 日向野 緑 先生（豊島区立南池袋小学校指導教諭）
- 山本 佳子 先生（東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事）
- 大藏 久美 先生（小平市立小平第六小学校指導教諭）
- 柴崎 聡己 先生（東京都教育庁指導部指導企画課指導主事）
- 西尾英里子 先生（東京都教育庁指導部指導企画課指導主事）

- ⑤ 8月31日（水）「小中一貫指導案検討会」  
神谷中学校会場 午後3時～3時50分
- ⑥ 9月7日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」  
神谷中学校会場 午後1時40分～4時15分  
・講師 鍛治田泰男 先生（北区立稲田小学校副校長）  
宮入 祥郎 先生（北区立神谷中学校副校長）
- ⑦ 「サブファミリー標語展」  
・「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から標語を募集  
・9月に最優秀作品10点を選び、ポスターを作成  
・校内及び町会・自治会の掲示板にて展示
- ⑧ 10月3日（月）「神谷中学校体験入学」  
神谷中学校会場 午後1時30分～4時  
・学校紹介・体験授業・部活動体験
- ⑨ 12月19日（月）「百人一首大会」  
神谷小学校会場 午後1時30分～3時  
・中学1年と小学4年との合同交流戦を実施
- ⑩ 1月16日（月）「小中一貫指導案検討会」  
神谷小学校会場 午後3時45分～4時30分
- ⑪ 1月25日（水）「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」  
神谷小学校会場 午後1時40分～4時25分  
・講師 柳瀬 修 先生（元東京都算数教育研究会会長）  
八田 慶子 先生（品川区立城南小学校講師）  
山田 一彦 先生（元東邦音楽大学教授）



神谷中学校体験入学

### 3 成果と工夫した点

- (1) 「サブファミリー総合防災訓練」及び「小中合同引き渡し訓練」は共に2年目となつて、運営方法等が明確になり、小中の教職員が昨年度より見通しをもって指導に当たることができた。そのため児童・生徒への定着も効率良く実現できているようである。
- (2) 昨年に続き「つまずきゼロプラン」の小中一貫学力向上部会を前倒しで開催したため、今年度も小学校6年生で学力向上に取り組める期間を確保することができた。
- (3) 2(2)で記載した以外に、中学校で行ってきた農業体験学習について、稲作を中心に一部小中合同での実施も2年目となり、地域との連携も含めて充実させられた。

### 4 課題と改善の方向性

- (1) 義務教育9年間を見通した防災教育の核である「サブファミリー総合防災訓練」の実施スタイルが定着してきたので、今後は細部の改善・工夫について検討する。
- (2) 施設一体型小中一貫校（義務教育学校）の設置を見据えた取組を徐々に展開する。例えば農業体験を全3校で行う等、小中合同で実施する分野を無理なく増やすよう検討していく。また、授業スタイルの検討・研究や生活指導の一貫性等について検討する分科会（3部会）を設置・開催して、3校の一体感をより高めるよう努力する。

## 浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

### 1 交流・連携の方向性

浮間中サブファミリーでは、昨年度に引き続き研究主題を「自ら考え、判断し、主体的に学習する子どもの育成」とし、特色ある取組を「花・音・風 ―情操教育の推進―」と題して、さくら草の栽培を通して生命の尊重や郷土を愛する心を培うことや、音楽活動や音楽交流を通して連続性・一貫性のある豊かな情操を育む活動を行った。また、今年度も公開授業や「つまずきゼロプラン 小中一貫学力向上シート」の作成・実施を通して、学習に関する小中の学びの連続性を重視した連携を推進した。

(1) 「学校ファミリーの日」を活用した教員の合同研修を通して、学校ファミリーとしての小中一貫教育の方向性を探り、実践していく。

「公開授業」「全体協議会・分科会」「中1ギャップ連絡会」等を行う。

(2) 子どもたちがより高い目標や理想に向かって向上しようとする態度を育成するため児童・生徒の交流の機会を設定する。

児童と生徒が合同で行う「音楽交流」「地域清掃ボランティア」等を行う。

(3) 学校行事の連携を推進するため、3校の行事の確認と内容を検討し、お互いの学校の状況が見えるようにする。

「新入生説明会」「文化祭参加」「音楽発表会参加」「作品交流」等を行う。

### 2 具体的な活動

(1) 調整や話し合い

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| ① 運営委員会による方針・目標等の決定 | ② 副校長による内容・方法等の検討 |
| ③ 教務主任による日程・内容等の調整  | ④ 担当者による内容の打ち合わせ  |

(2) サブファミリー全体での活動

① 合同研修会・公開授業

年3回の「学校ファミリーの日」に、浮間中学校・浮間小学校・西浮間小学校において、それぞれ公開授業と全体会及び分科会ごとに協議を行った。

6月には、浮間小学校で全学級の公開授業を行い、授業後は分科会に別れて授業の感想や意見交換、小中一貫教育の方向性についての話し合い、全体会にて各分科会より報告した。

9月は、同様に浮間中学校で全学級の公開授業を行い、授業後の分科会では授業についての協議の他、北区基礎・基本の定着度調査の結果(中学1年生)をもとに、学力向上に向けての課題について、指導の在り方等を検討し、全体会で報告し合った。

1月は、同様に西浮間小学校で全学級の公開授業を行い、分科会では、中学校でできること、小学校でできること等について、具体的な話し合いを行い全体会で報告した。

② 中一ギャップ連絡会

「学校ファミリーの日」の分科会終了後、「中一ギャップ連絡会」を行った。6月は小学校旧6年生担任と中学校1年生担任が、管理職も含めて子どもたちの様子に関する情報交換を行った。9月は教務主任が、つまずきゼロプランの検討と次年度を見据えた各校の行事予定の摺合せ等を行い、また、3月には、現6年生担任と中学校の教員が中

一ギャップ解消に向けての連絡会を例年同様に実施した。

### ③ 新入生説明会・部活見学

昨年同様、中学生の実際の授業風景の参観と部活動見学・体験を主体に行った。新入生説明会では、生徒会による学校紹介のプレゼンテーションも行われ、中学校の様子を両校の6年生に伝えることができた。

### ④ 文化行事交流

浮間中学校の文化祭の展示部門に、小学校の作品展示コーナーを設けている。例年同様に、浮間小学校の代表児童による合唱も披露された。

また、浮間中学校の吹奏楽部の生徒が、西浮間小学校の音楽集会に参加して演奏し、児童との交流を深めた。

### ⑤ 地域ボランティア

8月31日（水）に、各校一斉に例年恒例となった浮間地区の清掃活動を3校PTA及び教職員が子どもたちと共に活動に参加した。

### ⑥ 特別支援教育推進のための「浮間セミナー」の開催

10月24日（月）に、西浮間小学校にて、地域の皆様、幼稚園・保育園・小中学校の保護者・教職員を対象に、講師の先生をお招きし「これからの時代に知っておきたい子育てに基礎知識」をテーマにご講演をいただいた。今年度は昨年度の内容をさらに深めて、子どもの心の働きや行動の仕組みを発達面から考える機会の一つとした。

### ⑦ 伝統文化親子茶道教室

長年、伝統文化子供茶道教室として地域の小中学生に親しまれてきた活動を、地域の皆様や保護者からの要望もあり、昨年度から大人の方の参加も歓迎している。浮間中学校茶道部の生徒の協力のもと、地域と小中学生の交流の場にもなり、健全育成の視点からも有意義な活動となっている。

## 3 成果と工夫した点

- (1) 合同研修会では、今年度も各教科・道徳・特別支援教育からなる9分科会による協議を行い、学力向上や児童・生徒理解に関する共通理解を深めた。
- (2) つまづきゼロプランをもとに各教科における重点指導事項を明確にし、各校の教育課程や学力の状況について、より理解を深め、方策を考えることができた。
- (3) 北区で作成された小中一貫カリキュラムや北区基礎・基本の定着度調査結果を踏まえての研究授業や教育実践を行うことができた。



タブレットPCを使った授業：社会

## 4 課題と改善の方向性

- (1) サブファミリーとして、地域の特色や子どもたちの特性を踏まえた本質的な「連携」を目指して今後も、地域とともに取り組む視点をもった実践を重ねていく。
- (2) 各種調査結果を分析・考察することにより、学習課題を明確にし、小中共通理解のもと、弱点克服に向けた具体的な取組を実施する。

## 田端中サブファミリー（田端中・滝野川第四小・田端小）

### 1 交流・連携の方向性

- ・中学校区全体の教育力を高めるため、学校・家庭・地域の協力体制を確立し、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てる活動を推進し児童・生徒の健全育成を図る。
- ・中 1 ギャップ解消のために、小学校で学んできた学習や活動を中学校でも継続・発展させ、小中 9 年間の教育の接続・一貫を目指す。
- ・学校文化の異なる多様な人間関係を学び、対人関係調整力の向上や、自己実現を目指して広い視野やたくましい心を身に付けるように努める。
- ・11月に行われる「田端学びの郷オープンスクール」において、サブファミリー校の児童・生徒、地域の人たちが一緒になってその道の一流の先生から学び合う総合学習を行い、小中交流・地域との交流を深める。
- ・年 3 回の「学校ファミリーの日」には、3校の全教員が授業を参観し合い、小・中 9 年間の一貫した教育を見通し、田端中サブファミリー校で目指す子ども像や各校の教育実践について意見交換や指導方法の改善を図るよう推進する。

### 2 具体的な活動

#### (1) 副校長・教務主任連絡会の実施

- ア 第 1 回連絡会（田端小学校）日時：平成 28 年 5 月 6 日（金）15：30～
  - ・平成 28 年度各校の行事予定の確認・調整
  - ・「学校ファミリーの日」の日程、会場校、主な内容等の確認・調整
  - ・オープンスクールの実施案と担当校等の確認・調整
- イ 第 2 回連絡会（田端小学校）日時：平成 29 年 1 月 27 日（金）15：30～
  - ・平成 29 年度の各校行事予定の確認・調整
  - ・「学校ファミリーの日」の日程と担当校及び分科会の検討・調整
  - ・平成 29 年度のオープンスクールの日程と実施方法の検討・調整

#### (2) サブファミリーの活動報告

- ア 第 1 回 田端中サブファミリー合同研修会（会場：滝野川第四小学校）
  - ・実施日：平成 28 年 6 月 22 日（水）
  - ・内容：小中一貫カリキュラムを活用した授業公開・分科会・全体会
- イ 田端中サブファミリー外国語活動合同研修会（会場：滝野川第四小学校）
  - ・実施日：平成 28 年 8 月 29 日（月）
  - ・講師：片山知子先生（北区外国語アドバイザー）
  - ・研修内容：児童の意欲を高めるコミュニケーション活動の工夫、授業で使える活動例及び指導のアイデアの紹介、質疑応答
- ウ 第 2 回 田端中サブファミリー合同研修会（会場：田端小学校）
  - ・実施日：平成 28 年 9 月 7 日（水）
  - ・内容：小中一貫カリキュラムを活用した授業公開・分科会・全体会

エ 第3回 田端中サブファミリー合同研修会  
(会場校：田端中学校)

- ・実施日：平成29年1月31日(火)
- ・内容：小中一貫カリキュラムを視野に入れ、  
診断的・総括的評価を取り入れた授業実践  
ーR P D C Aサイクルを活用してーをテーマ  
に、公開授業と研究発表会・講演会



オ ファミリー小学校6年生体験入学(学校紹介・部活動体験)

- ・実施日：平成28年10月6日(木) 13:40~15:00
- ・内容：生徒会による学校紹介と英語、合唱、テニス等10の部活動体験

カ 田端学びの郷「オープンスクール」(田端中・滝四小、田端文士村記念館)

- ・第1回：平成28年11月5日(土) 9:15~11:00
- ・第2回：平成28年11月18日(金) 13:30~15:00
- ・参加者：小学生123名(6年生)、中学生188名(全学年)、講師：25名
- ・内容：陶芸、茶道、華道、アレンジ生け花、防災救命、東京手描き友禅等、計  
20講座を小・中学生がともに地域人材の方に学び活動。

キ 「つまずきゼロプラン」小中一貫学力向上部会(会場校：田端中学校)

- ・実施日：平成28年10月27日(木) 16:00~16:45
- ・参加者：北区教育委員会サブファミリー担当指導主事、各小学校の第6学年  
担当教員各校2名、田端中学校副校長・教務主任・各教科主任
- ・内容：北区基礎・基本の定着度調査で明らかになった中学校1学年の課題を、  
田端中学校各教科の主任教員が第6学年教員と共に解消する取組を推進する。

### 3 成果と工夫した点

- ・分科会の組織を整理し、教員が積極的に合同研修会に参加しやすい体制をとることができた。
- ・田端学びの郷「オープンスクール」では、20講座のうち会場は田端中が16講座、滝四小が3講座、文士村1講座に分かれ、担当者が協力して実施することができた。地域の人材を生かした特色ある教育活動をさらに進め、児童・生徒の学ぶ意欲を高めたり、地域の方との交流を深めたりすることができた。
- ・「つまずきゼロプラン」により、学力面での中1ギャップへの予防・対応のきっかけとなった。小中一貫連続カリキュラムを基礎学力の定着・向上の視点から見直す機会となった。

### 4 課題と改善の方向性

- ・田端学びの郷「オープンスクール」の人材については、各校のもつ人材についても活用しながら、ファミリー全体の取組を深めることができるとよい。
- ・小中一貫カリキュラムを活用した授業を合同研修会で行うことができたが、「つまずきゼロプラン」で出た課題をより把握した授業改善を小中協働で進めることができるとうい。

## 滝紅中サブファミリー（滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・滝野川第六小・谷端小・紅葉小・たきさん幼）

### 1 交流・連携の方向性

- ・サブファミリー6校1園で児童・生徒の健全育成及び授業改善推進に向けた取組を行う。
- ・教科ごとによる授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深める活動を行う。
- ・伝統野菜の「滝野川ごぼう」等の栽培や標語の作成など、地域に誇りをもつ活動や地域と関わる活動を行う。
- ・小中一貫教育に向けた具体的な取組を行う。



### 2 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

- ・年度初めに6校1園の校園長で、昨年度末に作成された本年度の活動計画、年間指導計画について、確認し方向性を定めた。
- ・5月10日に滝野川紅葉中校長・各校副校園長・主幹教諭が集まり、サブファミリー運営委員会を実施し、部会の組織、運営方法、構成員の確認等を行った。
- ・教務主任・生活指導主任は随時連絡を取合い、方針の共通理解、日程調整等を行った。
- ・3月13日にサブファミリー校運営委員会で、来年度の方向性を検討した。

#### (2) ファミリー全体での活動

- ①幼稚園・小学校は「思いやり」を、中学校は「絆」をテーマに標語を募集し、審査後、関係各所に掲示した。
- ②授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、体育・保健体育、専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の7教科の分科会で、「言語活動の充実とコミュニケーション能力の向上」を研究テーマに実施した。
  - ・6月22日は、滝野川紅葉中学校で、各教科分科会の授業参観及び分科会別研究協議会を行った。
  - ・9月7日に谷端小学校、1月25日は滝野川第三小学校で、分科会ごとに、授業研究及び協議会を行った。また、この2回の研究授業では、指導案検討会を8月29日、12月19日にそれぞれ行った。
  - ・本年度3回の研究協議会に講師を招聘し、成果と課題を確認した。

#### ③「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・地域の方々と連携し、子どもたちの活動を支援できる体制を作った。紅葉小学校では、滝野川ごぼうについて知るために、東京家政大学との食育授業を行い、手で触ってみてどんな野菜なのか、ごぼうとはどんな野菜なのかなどについて意見を交わしながら学習した。





- ・「地場野菜」の「滝野川ごぼう」について、子どもたちが自分たちで「育てる」活動を通じて食育につなげた。
- ・前年度冬の「土作り」から4月の「土おこし・種まき」「水やり」「草取り」「収穫」と一年間にわたって関わり続けることや「ごぼう給食」をいただいて、感謝の気持ちを育成した。

#### ④体験入学

9月にサブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験入学を実施した。中学校教員による各教科の授業、生徒会役員による滝野川紅葉中学校の説明を聞いた。

ごぼう給食



4月土おこし・種まき

#### ⑤六校連キンボール大会

10月16日、滝野川紅葉中学校体育館の明るく温かい雰囲気の中、北区地域スポーツ推進委員のみなさんのご協力により、熱戦が繰り広げられた。



#### ⑥クリーンキャンペーン

学校の周りの清掃や地域に小学校の児童作成ポスターを掲示したりすることで、自分たちのまちの美化を意識するだけでなく、地域へのアピールにもつながった。PTAの方々の協力もあった。

### 3 成果と工夫した点

- ・授業研究を通して、各教科における効果的な指導のあり方を探究することができた。事前に指導案検討会を行なうことで成果を収めた。
- ・4月に実施した北区基礎・基本の定着度調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を活用して、学力向上の手立てを確認できた。
- ・研究授業及び研究協議会は、各回ともに全領域で講師をお招きし、指導助言をいただくことができた。小中一貫教育カリキュラムに関する講話も聞け、今後の研修につながるものとなった。

### 4 課題と改善の方向性

- ・各教科での研究は、小中一貫教育カリキュラムに関する研修につながったが、小中9年間を見通した指導のあり方を検証する必要がある。
- ・来年度も、研究テーマを「言語活動の充実とコミュニケーション能力の向上」とし継続研究をしていく。各教科の中で、言語活動（話す・聞く・書く・読む）の充実を図り、どのような指導の工夫をして力を育成するかが、今後の課題である。
- ・研究分科会は、教科の専門性を重視した教科連携型を継承する。国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語、体育・保健体育（養護教諭を含む）、専科（音楽、図工・美術、技術・家庭、栄養士）の7分科会とするが、専科を各教科に分けて行うことも視野に入れる。

## 飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

### 1 交流・連携の方向性

これまでに継続してきた基礎学力向上、児童・生徒交流を2つの柱として、小・中連携教育の推進を充実する。

#### 育てたい子ども像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子ども
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子ども
- 3 明るく元気に進んで運動する子ども
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子ども



### 2 具体的な活動

#### (1) 全体会

- ① 5月 2日（月）全体会・打ち合わせ会 飛鳥中学校 15時～
- ② 6月22日（水）公開授業（全学級） 飛鳥中学校 13時40分～
- ③ 9月 7日（水）公開授業（算数・全学級） 西ヶ原小学校 13時40分～
- ④ 1月25日（水）道徳授業地区公開講座（全学級）滝野川小 13時30分～

#### (2) 分科会の具体的な取組

##### [基礎学力向上]

#### ① 算数・数学

中学校の公開授業（数学）小学校少人数担当教員が参加。（6月）

小学校の算数公開授業に中学校教員全員参加。（9月）

中学3年生が小学校6年生の算数の授業に参加。（2月）



#### ② 理科

小中合同実技研修会を実施（電気の性質）（7月）

#### ③ 外国語活動・英語

中学校新入生体験入学における英語科授業体験、見学。

小中の授業実践について意見交換会を行う。（11月）

区中英研授業・協議会に小学校の教員参加。（11月）

#### ④ 道徳

滝野川小学校学校の道徳授業地区公開講座に3校の教員が全員参観。全体協議会には講師を招聘し、地域・保護者の方と意見交換会を行う。（1月）

#### ⑤ 小中連携「つまずきゼロプラン」会議（9月）

##### [児童・生徒交流]

#### ① 保健

飛鳥中の保健委員会の生徒が、滝野川小・西ヶ原小で保健「たばこの害」についての発表を行う。（12月）

② 家庭科

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流を行う。

③ 図工・美術

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流を行う。

④ 習字・書写

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流を行う。

⑤ 運動会交流・参加

西ヶ原小運動会に飛鳥中の吹奏楽部が演奏・パフォーマンスを披露。(5月)

⑥ 合唱交流・参加

飛鳥中(3年)・滝野川小(6年)・西ヶ原小(6年)が飛鳥中で合同合唱交流。(3月)  
混声三部合唱「夢の世界を」

⑦ 陸上記録会練習交流

飛鳥中陸上部の生徒、各運動部の生徒が中心となり、小学校陸上記録会に向けて滝野川小・西ヶ原小の6年生と合同練習を行う。(10月)

⑧ 部活動交流

飛鳥中での新入生体験入学で、各部活動へ体験入部し交流する。(11月)



### 3 成果と工夫した点

- (1) 学力向上に向けた主体的な学びを共通の主題とした研究授業をそれぞれ実施することができた。また、協議会の場を設定したことで情報交換や小中の相互理解が深められた。
- (2) 小中の時程の違い、カリキュラムの違いはあるが、各分科会の責任者が中心となり、連絡・調整し効果的な活動が継続的に実施できた。

### 4 課題と改善の方向性

- (1) この数年同じ内容の交流である。各分科会での交流内容を見直し運営方法も含めた改善を図っていく。
- (2) つまづきゼロプラン協議会を年2回以上行い、小中連携で基礎学力の定着や学習習慣の定着を図る。

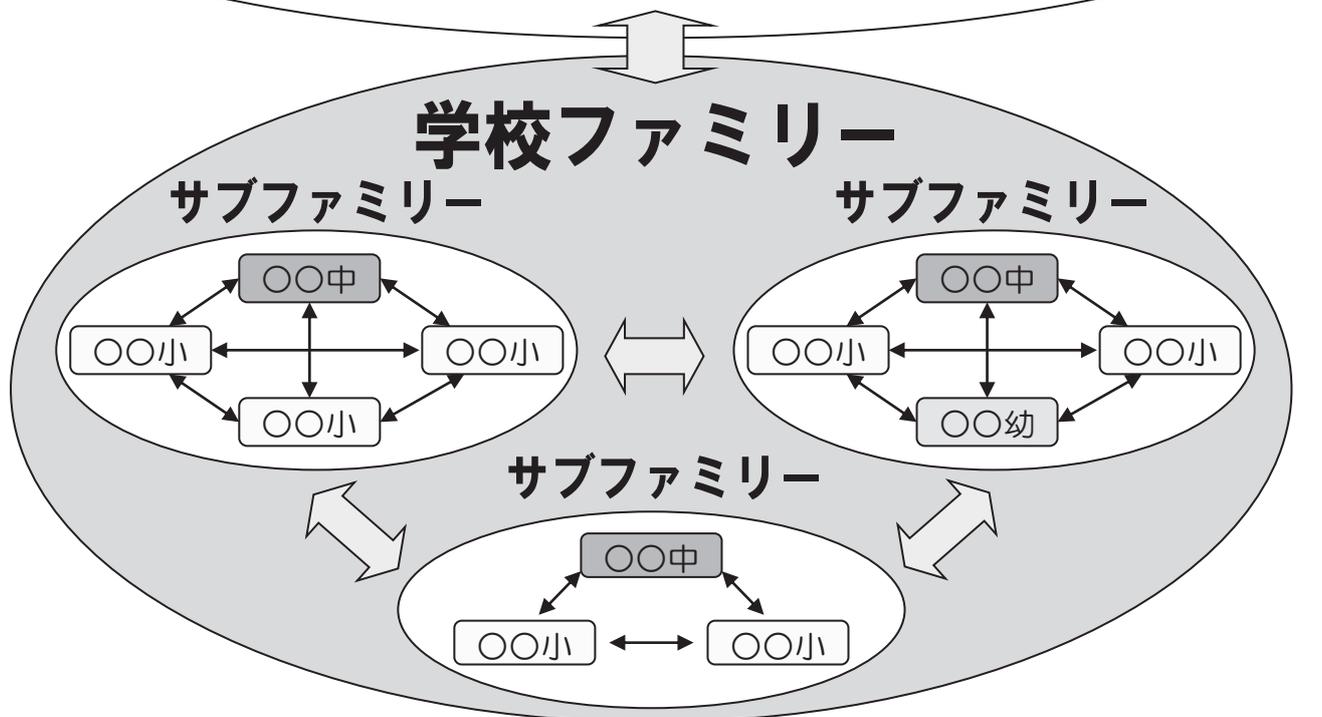
# 北区学校ファミリー構想概要

## 1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）

### 《学校関係者・地域の関係諸機関との連携・協力》

- 町会・自治会、青少年地区委員会、児童委員、地域振興室 など
- 高校、大学・大学院、図書館 など
- 児童館、保育園、福祉保健センター、教育相談所、児童相談所 など
- 警察署、消防署、高齢者施設 など
- 教育ボランティア、ボランティア団体、民間活動団体 など



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

### 教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている

学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

### 改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

## 2 北区学校ファミリーのねらい

### ①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結ぶ」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

### ②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしめます。

### ③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

## 3 学校間連携による5つの効果

### ①教育課程の面

- ・ 共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・ 地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

### ②学校運営の面

- ・ 学校間の組織的な連携
- ・ 指導体制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

### ③子どもの学びの面

- ・ 基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・ 就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・ 小中の交流による相互理解
- ・ 小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

### ④教員の資質向上の面

- ・ 子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・ 授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・ 小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

### ⑤健全育成の面

- ・ 広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・ 保護者や地域との信頼関係の深まり

## 4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

### サブファミリーの活動の様子



田端中 SF 小学校授業参観・合同研修会



王子桜中 SF 小中一貫（算数・数学）授業研究



桐ヶ丘中 SF 幼・小連携 TT 保育・授業



滝野川紅葉中 SF 滝野川ごぼうの栽培



飛鳥中 SF 小・中連携 TT 授業



神谷中 SF ワークショップ型研修

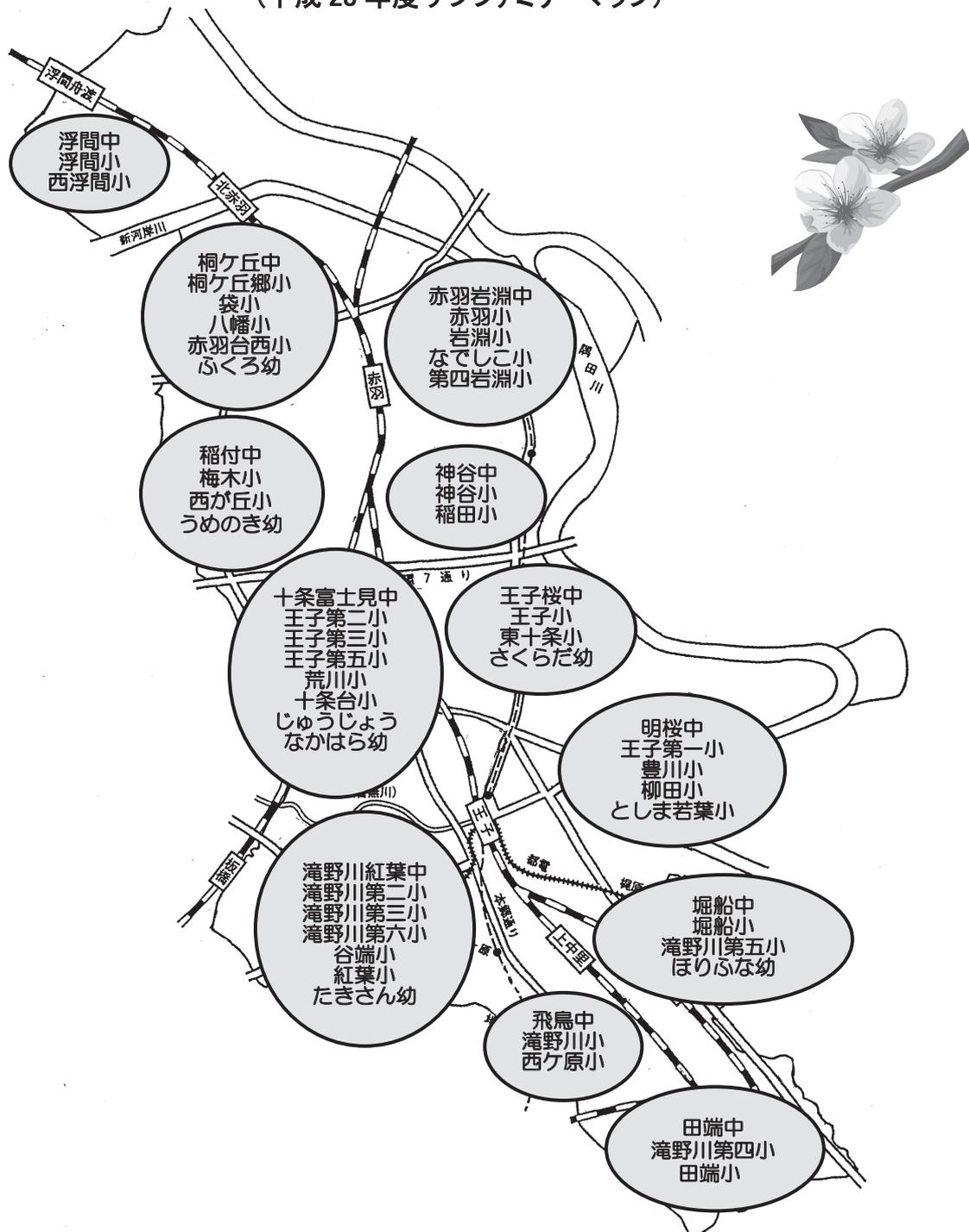
### 「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、各学期に「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

## 5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(平成 28 年度サブファミリーマップ)



## 6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。

## 平成 28 年度北区学校ファミリー事業報告書

平成 29 年 3 月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課

東京都北区滝野川 2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

28-1-133